
遊戯王 G X 似て非なるこの運命の道

高二病

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 似て非なるこの運命の道

【Nコード】

N7825X

【作者名】

高二病

【あらすじ】

デュエルアカデミアの入試に十代と同時にたどりついた、小早川^{こはやかわ}李音^{りおん}。

転生物ではなく、ただ普通のデュエリスト！

しかし、運命というのは数奇なるもの。彼という存在が、私たちの知るGXの世界のストーリーに、少しずつ、着実に余計なものまで呼び込む！？

通常なら存在しない、シンクロ・エクシーズまで普通に存在！？

GXでは見られなかった既存キャラの戦いまで！

彼は壮絶なデュエルアカデミアの生活を生き抜くことはできるのか
！？

遅刻、ヨクナイ、ゼツタイ（前書き）

この作品は、オリ主介人物の小説です。

また、原作の時代背景は華麗にスルー、という訳で、

ふつうにGXメンバーがシンクロ・エクシーズを使ったりもします。

「そんなのGXじゃない！」というお方は、すぐにブラウザバックを、

それでも良いというお方はどうぞ、この小説にお付き合いください。

遅刻、ヨクナイ、ゼツタイ

俺はこはやかわ小早川 りおん李音。

俺は一流のプロデュエリストになるため、デュエリストの育成機関、デュエルアカデミアに入学する。今日はその試験の日。

天気は快晴。

体調も良く、今日は最高の日となるだろう。

そう、それがたった今、

電車の事故という理由で遅刻確定などでなければ……。

「ああ、もう最悪だよ。今日はデュエルアカデミアの試験の日だ
つてのに電車が事故で遅れるなんて……」

そんな自分の不幸を嘆きながらも、俺は試験会場への道を走り続け

る。

そのまま十字路に入ったとき、俺は、俺と同じようにして道を全力疾走する少年と出会った。

その少年は俺と同じ道を走りつつ、声を掛けてくる。

「お前もアカデミアの試験を受ける奴か!？」

「そうだよ! 名前は小早川 李音!」

「そうか! 俺は遊城十代! よろしくな!」

「よろしく! それよりも十代!」

「なんだ!？」

「とりあえず、辛いから無言で突っ走るよ!」

「オーケー!」

この短い会話。

でも、俺達全力疾走中なんだ。

限界まで、飛ばすぜ!

試験会場が見えてきた！受付はあそこか！？やばいもう片付け始めてる！！

「受験番号102（110）小早川李音（遊城十代）です！まだ受付終了してないですよね！？」

声を揃えて二人が同時に叫ぶ。初対面でこの息の合いようは何ともいえないけどね。

一瞬、係の人たちは戸惑ったような顔をしたけど、中に通してくれた。

「そんなのぜったいノ！みとめないノ！」

「しかしクロノス教諭、試験を受けさせないというのは後々問題が・
・・」

通されて入ったのはいいけど、何か顔面真っ白な人が喚き散らして
るよ。どうということなの。

「だいたい100番台の試験は終了してるノ！今更受けさせるわ
けには プルルル
はい、あ、鮫島校長、・・・分かりました、そのようにしますの
ネ ピツ
」

「ねえ十代」

「・・・言わなくても聞こえてる。間に合わなかったんだな、俺達・
・・」

ナンテコツタイ。試験も受けられずに不合格とは・・・。
あんまりだ・・・。

「まったく、あの狸校長は何を考えているのノネ。そもそもアカデ
ミアは、ブツブツ」

「クロノス教諭？」

「分かったのノネ！ワタシが試験を執り行つのノネ！！」

「お待ちください！試験には試験用のデッキを・・・」

「必要ないのゝネ！！！！」

ん？なんか試験してくれる雰囲気みたい？

「試験番号110番！早くデュエル場に来るのゝネ！」

「は、はい！」

「十代、勝てよ？」

「もちろんだぜ！」

「それでは受験番号110番。遊城十代の試験デュエルを始めます」

「「デュエル！！！！」」

「まずは俺のターン、ドロー！おれはE・HERO エアーマンを攻撃表示で召喚するぜ！」

その瞬間エアーマンの効果発動！デッキからHEROと名のつくモンスターを一体手札に加えるぜ！おれはE・HERO バーストレディを手札に加える！」

E・HERO エアーマン ATK/1800

「さらに俺は2枚のリバースカードをセットしてターンエンドだぜ！」

十代 LP4000

E・HERO エアーマン リバースカード2 手札4

十代のデッキは E・HERO か。融合主体だから手札消費が多いのが難点だけど・・・。

「ワタシのターン、ドローするノ〜ネ！」

しかし耳について離れない口調だね。何か移りそう。

「ワタシは、フィールド魔法、齒車街を発動するの〜ネ！」

試験官の白い人がフィールド魔法を発動する。

周りからは、「あのデッキは・・・」とか、「あの受験生も気の毒に・・・」とかいう声が聞こえてくる。

何？あのデッキそこまですごいのか？

「さら〜二！ワタシはリバースカードを2枚セット！そして、マジックカード大あらしを発動するの〜ネ！このカードは、全フィールド上のマジック、トラップカードを破壊するの〜ネ！」

「リバーストラップオープン！スキルセクセサー！このカードの効

果で、エアーマンの攻撃力は400ポイントアップする！」

E・HERO エアーマン ATK/1800 2200

「・・・ドロップアウトボーイにも、最低限の知識はあったのゝネ」
「へっ、それより先生のカードまで破壊されちまったぜ？ミスか？」

その通り。大嵐を普通に使うなら一番最初に使うべきなのに。
だったらいい・・・。

「それでいいのゝネ。ワタシの破壊されたカードは黄金の邪神像2枚と歯車街！酔ってこの3枚のカードの効果を発動するのゝネ！！」

「なんだって！？」

「まず歯車街の効果！デッキまたは墓地から、古代の機械と名のついたモンスターを特殊召喚することができるのゝネ。出てくるのゝネ！古代の機械巨竜！！」

古代の機械巨竜 ATK/3000

「なんだって！？」

確かにすごいコンボだ・・・。

「さらゝ二！黄金の邪神象の効果！2体の邪神トークンを特殊召喚するのゝネ！」

邪神トークン ATK/1000

「邪神トークン2体を生贄に2体目の古代の機械巨竜を召喚するの

「ネ！」

古代の機械巨竜 ATK/3000

「あんなモンスターがもう一体だって!？」

「バトル！一体目の古代の機械巨竜でエアーマンにアタックするの
「ネ！エンシェントプレス！」

十代 LP4000 ↓ 3200

「さら「二、二体目の古代の機械巨竜でダイレクトアタックするの
「ネ！」

十代 LP3200 ↓ 200

「うわああ！」

「これでターンエンドなの「ネ」

クロノス LP4000

古代の機械巨竜 古代の機械巨竜 手札1

十代のライフは残り200。

手札の枚数は十分だが、E・HEROの宿命、融合抜きでの攻撃力の低さ。

果たして十代の手札に融合は……。

やつべー！まだ融合を引いていないのにこの状況はやばい！！なんとか凌がねえと・・・

引いてないね、あの顔色。すつごく分かりやすいよ十代。

もし二人とも入学できたら、まず、君にポーカーフフェイスを教えることにするよ。

（クリクリー）

？この声は・・・？

十代の手が止まってるな・・・。さっきから変な声も聞こえるし、このデュエル大丈夫か・・・？

そうか、こいつの効果なら！

「俺のターン、俺はモンスターをセット！さらにリバースカードをセットしてターンエンドだぜ！」

十代 LP200

セットモンスター リバースカード1 手札3

（やはり、あのドロップアウトボーイは低レベルなの～ネ。大方、あのリバースカードで攻撃を防ごうなんて考えてるのでしょう～ガ、古代の機械巨竜の攻撃時～二、マジック、トラップを発動することはいかないの～ネ）

「私のターン、私は1体目の古代の機械巨竜でセットモンスターに攻撃！」

セットモンスター ハネクリボー

「これで終わりなの～ネ！古代の機械巨竜でダイレクトアタック！
！！」

「十代！」

俺は、思わず声を張り上げてしまっていた。

「まだだ！ハネクリボーの効果！このカードが破壊され墓地に送られたターン、このカードのコントローラーへのダメージは0になる
！」

十代 LP2000↓2000

ふう。十代のライフはそのままか。このターンはしのいけど・・・

「グヌヌ！私はこのままターンエンドなの～ネ！」

クロノス LP4000

古代の機械巨竜 古代の機械巨竜 手札2

「なあ先生！ここで俺が逆転したら燃えると思わないか！？」

「何を言ってるのゝネ。そんなことあるわけないのゝネ」

「でもできたら燃えるだろう！？だから俺はやって見せるぜ！」

さあ、十代は何を見せてくれるんだ！？

「俺のターン、ドロー！俺はスタンバイフェイズにリバースカード、強欲な瓶を発動する！強欲な瓶の効果で1枚ドロー！」

俺はマジックカード、融合を発動！手札のフェザーマンとバーストレディを融合！

現れる！E・HEROフレイム・ウイングマン！」

E・HERO フレイム・ウイングマン ATK/2100

「そんなモンスターでは！機械巨竜は倒せないのゝネ！！！」

「分かってるさ！さらに俺は、マジックカード、ミラクル・フュージョンを発動！」

このカードは墓地の融合素材モンスターを除外してE・HEROと名のついたモンスターの融合召喚を行う！」

「墓地から融合ですゝト！！？」

「俺は墓地の、バーストレディとフェザーマンを除外！」

現れる！E・HERO Great TORNADO！！！」

《E・HERO Great TORNADO》ATK/2800

「デ、デスーガ、そのモンスターの攻撃力も機械巨竜よりも下なの
ネ！！！」

「慌てんなって！Great TORNADOの効果！！相手ファイ
ールド上のモンスターすべての攻撃力を半分にする！！！喰らえ！
タウン・バースト！！！」

古代の機械巨竜	ATK / 3000	↓ 1500
古代の機械巨竜	ATK / 3000	↓ 1500

「そんな！あり得ないのネ！！！」

「さらに墓地のスキルセクセサーの効果！墓地にあるこのカードを
除外することで、自分のモンスター1体の攻撃力をあげる！！フレ
イム・ウィングマンの攻撃力が800ポイントアップ！！バトル
だ！フレイム・ウィングマンで古代の機械巨竜にアタック！！フレ
イム・シュート！！！」

クロノス	LP 4000	↓ 2600
------	---------	--------

「ま、まだなのネ！」

「いや、もう終わりだぜ！フレイム・ウィングマンの効果！！この
カードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地に送ったとき、破壊
したモンスターの攻撃力分のダメージを与える！」

「な、何ですト！？」

「この効果で、扱うのは墓地での攻撃力！つまり、機械巨竜の攻撃
力3000ポイント分のダメージが与えられる！！喰らえ！セカン

ド・フレイム！！！！」

クロノス LP2600↓0

「マ、マンマミーア」

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ！！！！」

「勝者！受験番号102番、遊城十代！」

「やったな十代！」

「ああ、約束通り勝ったぜ！次はお前の番だぜ？」

「もちろんだよ！絶対勝つ！！」

確かに強い人だけど、こんなにすごいデュエルを見せられたんだ！
俺だって勝ちたい！！

だけど、周りの観客たちはみんな十代の噂してるよ……。
何これ、俺この空気の中でデュエルするの？

S i d e 明日香

「今年の受験生、すごいわね。まさかクロノス教諭に勝ってしまうなんて・・・」

「そうだな。こうなってくると、もう一人の受験生にも期待がかかってくるな」

「ああ、今の子と一緒に入って来た子のことね。確かにそうね・・・。彼も強いのかしら」

「少なくとも、このデュエルを見ないというやつはいないだろうな」

「亮がそこまで言うほどのデュエルだったって頃よね。・・・薫、あなたはと思う？」

明日香は近くにいた、自分の親友へと声をかける。

「えーっと。見てからのお楽しみ、でしょうか？」

曖昧な感じで彼女は答える。

「あなたらしいわね。じゃあ見せてもらいましょう。受験生君の実力を」

S i d e 明日香 e n d

遅刻、ヨクナイ、ゼツタイ（後書き）

作「とりあえず、一話目を投稿してみたのだが……。どうしてこ
うなった。とりあえず、現時点で謎すぎる薫さんに来てもらいまし
た」

薫「私、ここに来て良かったのかな？」

作「問題ない。別に悪役でもあるまいし。主人公サイドだし。つい
でだから自己紹介をばよろ」

薫「えーっと、風見 薫といいます。明日香とは友達で、亮さんと
も一応知り合いです。デツキは……」

作「はいそこまで。デツキまで出しちゃだめ。少し待ったら出番来
るから。」

そして本日の議題。なぜ主人公がデュエルしてないのかと」

薫「本編最初のデュエルが原作と同じ組み合わせって……」

作「俺も考えたんだよ？考えてこれなんだと。主人公より十代のデ
ュエルが先の方が都合がよかったという」

薫「これはひどいですね……」

作「まあ、ここで謝罪する。読者様と主人公（笑）状態の李音に」

薫「後は、十代さんの使ってた融合体なんですが」

作「使いやすすぎるね、属性融合。まあ二次創作故ってことで。では今回はこの辺で」

薫「ではまた次回、お会いしましょう」

「さようなら」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7825x/>

遊戯王GX 似て非なるこの運命の道

2011年10月21日03時03分発行